



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ジーンテクノサイエンス  
コード番号 4584 URL <http://www.g-gts.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 河南 雅成

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO

(氏名) 三ツ木 勝俊

TEL 03-3517-1353

四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	145	△7.4	△652	—	△619	—	△620	—
26年3月期第3四半期	157	285.1	△301	—	△303	—	△305	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△260.19	—
26年3月期第3四半期	△143.88	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高がありますが、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	1,313	442	32.1
26年3月期	1,886	1,052	54.7

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 420百万円 26年3月期 1,031百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	310	3.0	△970	—	△946	—	△948	—	△397.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	2,394,105 株	26年3月期	2,384,105 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	2,384,832 株	26年3月期3Q	2,121,677 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、政府及び日銀による経済政策や円安基調・株価上昇を背景に、企業収益に景気回復の兆しが見られました。また、平成26年12月の衆議院選挙において与党が大勝したことで、安倍首相の「経済に最優先で取り組む」成長戦略が期待されているものの、消費税増税による物価上昇懸念や将来における消費税率の更なる引上げ等の懸念材料から、個人消費の持ち直しは足踏み状態が続いております。さらに、米国の金融政策正常化に向けた動きの影響や欧州諸国の債務問題、ロシア、中国その他新興国の成長率の鈍化もあり、依然としてその先行きは不透明な状況が続いております。

一方、当社の事業に関わる医療・医薬品分野では、厚生労働省の発表によると、高齢化などにより国民1人当たりの医療費は30.8万円(前年度比2.4%増)となり、5年連続で過去最高を更新しております。さらに、今回の消費税増税については、増加する社会保障費への対策が目的ですが、景気への影響もあり2%の増税については先送りとなりました。これにより、医療費の財政への負担はますます大きくなることから、後発医薬品の使用を促進し、高齢化に伴い増加する社会保障費を少しでも抑制する流れが生まれつつあります。この流れは、医薬品業界において、新たなチャレンジやビジネスチャンスになるとも考えることができます。

このような状況の下、当社のバイオ後続品事業は、富士製薬工業㈱と持田製薬㈱による好中球減少症治療薬「G-CSF」の販売が順調で、来期に向けて販売増につながることを期待しております。なお、当第3四半期累計期間の売上高には計上しておりませんが、本年度2ロット目のG-CSF原薬を既に富士製薬工業㈱に納品しておりますので、当事業年度の売上予想を達成できる見込みとなりました。

また、先行するG-CSFが当社の経営の安定を増していくことを踏まえ、より一層の成長に向けて、

- ① G-CSFの価値最大化に向けた海外展開と次世代G-CSFである「PEG-G-CSF」の開発
- ② 伊藤忠ケミカルフロンティア㈱との共同開発
- ③ ㈱三和化学研究所とのダルベポエチンアルファの国内共同開発

などについて、着実に開発ステージを前進させることが重要であると考えております。

一方、バイオ新薬事業では、各種補助金を活用して、次世代型抗体医薬品の研究活動を進めております。また、㈱ジーンデザインとの核酸共同事業についても、核酸医薬品の可能性をリサーチし、医薬品への機会を狙っていきたいとの考えで取組みを進めております。

しかしながら、バイオ医薬品の開発には時間を要しますので、短期的な経営の柱についても早期に構築すべく、ヘルスケア関連分野を広く調査し、新たな試みも進めております。その第1弾として、人工骨の研究開発を手掛けるベンチャー企業であるORTHOREBIRTH㈱と平成26年11月10日付で資本業務提携契約を締結し、同社に49,995千円の出資を行いました。これにより、米国市場への販売が進み、短期的な収益につながるものと期待しております。なお、本事業については、単なる人工骨の販売という観点だけではなく、大きな意味で再生医療分野への入口と当社は位置付けております。

これらの結果、売上高は145,776千円(前年同期比7.4%減)、営業損失は652,803千円(前年同期は301,145千円の営業損失)、経常損失は619,036千円(前年同期は303,229千円の経常損失)、四半期純損失は620,506千円(前年同期は305,275千円の四半期純損失)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の変動について)

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末比30.4%減の1,313,029千円となりました。これは主に、前渡金が99,791千円、投資その他の資産に含まれる投資有価証券が49,995千円増加したものの、現金及び預金が743,297千円減少したことによるものであります。現金及び預金の減少については、バイオ後続品に係る開発費の支払いが主な要因であります。

#### (負債の変動について)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末比4.4%増の870,696千円となりました。これは主に、未払法人税等が3,058千円減少したものの、流動負債のその他に含まれる未払金が40,276千円増加したことによるものであります。

#### (純資産の変動について)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末比58.0%減の442,332千円となりました。これは、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ5,000千円増加したものの、四半期純損失を620,506千円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月14日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、本年度2ロット目のG-CSF原薬を既に富士製薬工業株に納品しており、当事業年度の売上予想を達成できる見込みとなりました。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位: 千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,610,244	866,946
売掛金	148,932	156,412
前渡金	111,803	211,595
その他	10,976	23,605
流動資産合計	1,881,956	1,258,560
固定資産		
有形固定資産	552	376
無形固定資産	285	256
投資その他の資産	3,983	53,836
固定資産合計	4,820	54,469
資産合計	1,886,777	1,313,029
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払法人税等	6,300	3,241
その他	43,758	83,574
流動負債合計	50,058	86,816
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	775,000	775,000
退職給付引当金	8,880	8,880
固定負債合計	783,880	783,880
負債合計	833,938	870,696
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,571,290	1,576,290
資本剰余金	1,474,557	1,479,557
利益剰余金	△2,014,349	△2,634,855
株主資本合計	1,031,497	420,991
新株予約権	21,341	21,341
純資産合計	1,052,839	442,332
負債純資産合計	1,886,777	1,313,029

(2) 四半期損益計算書  
 (第3四半期累計期間)

(単位: 千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	157,508	145,776
売上原価	75,984	67,200
売上総利益	81,524	78,576
販売費及び一般管理費		
研究開発費	186,800	506,070
その他	195,868	225,309
販売費及び一般管理費合計	382,669	731,380
営業損失(△)	△301,145	△652,803
営業外収益		
受取利息	365	487
補助金収入	—	33,131
為替差益	—	0
雑収入	56	238
営業外収益合計	422	33,858
営業外費用		
社債発行費等	918	—
株式交付費	1,580	91
為替差損	7	—
雑損失	0	—
営業外費用合計	2,506	91
経常損失(△)	△303,229	△619,036
特別損失		
固定資産除却損	—	44
特別損失合計	—	44
税引前四半期純損失(△)	△303,229	△619,081
法人税、住民税及び事業税	2,045	1,425
法人税等合計	2,045	1,425
四半期純損失(△)	△305,275	△620,506

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。